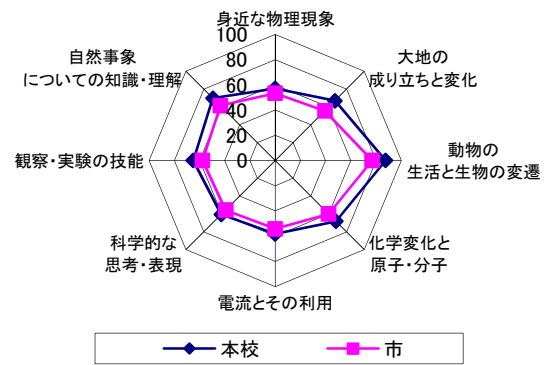


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	57.1	53.4
	大地の成り立ちと変化	67.1	55.7
	動物の生活と生物の変遷	87.6	76.9
	化学変化と原子・分子	68.3	60.0
	電流とその利用	58.3	54.2
観点別	科学的な思考・表現	60.6	55.6
	観察・実験の技能	65.0	57.7
	自然事象についての知識・理解	69.9	61.5



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	音の大小による波形の違いに関しては、本校の正答率が宇都宮市の平均正答率を11.2ポイント上回る結果となったが、水中の物体にはたらく浮力の大きさに関しては、正答率が22.6%と低く、定着が不十分である。	すべての領域に言えることだが、市の平均と比べてよいから、よい指導ができているとは限らない。光・音・力についてを理解するまでに、どんな探究の過程があったかに重点をおいた指導を心がける必要がある。
大地の成り立ちと変化	大地の成り立ちと変化の領域に関しては、本校の正答率が宇都宮市の平均正答率を11ポイント上回る結果となった。火山岩のできかたや、マグマの性質からできた火山の形を推測するなど生徒が興味をもって取り組む内容が多く、この領域への関心が非常に高い。	ペーパーテストの結果から、新出の言葉や大地の成り立ちのしくみについてよく理解していたことはわかるが、形式的な理解にとどまることのないよう、一人一人の観察・実験の実践的な力を養っていくよう工夫する。
動物の生活と生物の変遷	動物の生活と生物の変遷の領域に関しては、本校の正答率が宇都宮市の平均正答率を10.7ポイント上回る結果となった。進化の過程を証拠づけるものとして相同器官の考え方が定着しており、全国の平均正答率を40ポイントも上回る結果となった。	生徒が興味をもって取り組める領域なので定着度は高い。今後は、自分が探究したいテーマについて、課題解決学習にも取り組ませたい。
化学変化と原子・分子	化学変化と原子・分子の領域に関しては、本校の正答率が宇都宮市の平均正答率を8.3ポイント上回る結果となった。化学反応式で表す問題では、宇都宮市の平均正答率を21.7ポイント上回った。この領域は目に見えない自然の事象を取り扱うので、わかりにくい内容が多いが、モデルで考えさせるよう指導した。	化学の分野は他の分野と比べて、科学的な思考力が身に付く実験が多いので、生徒の興味関心を喚起するような実験を工夫する。
電流とその利用	電流とその利用の領域に関しては、本校の正答率が宇都宮市の平均正答率を8.4ポイント上回る結果となった。電流の分野は生徒達は、理科の領域の中でも、特に理解が難しいところである。本校は全国平均を下回っている問題もあり、まだ理解が不十分である。	練習問題を解かせるなどして、知識の定着を図りたい。また、オームの法則やフレミング左手の法則など問題を解く上で不可欠な公式や法則についても、繰り返し指導していきたい。